

## ブランドデザイン委員会のあゆみ

企画委員会が発足したのが2007年2月。あれから6年半という長い月日の間、ITC中部とその会員様の発展のため、日々活動を続けている委員会です。当初からのメンバーは、中井さん・秋山さん・森さん・堀さん及び私の6名で、現在もメンバーとして活動しており、全員がITC中部の監事・理事も兼任し活躍しています。

では、今までの企画委員会の歩みを振り返ってみましょう。まず、2007年6月に開催された「IT経営カンファレンスin 名古屋」において、IT企業の展示会の企画・運営を行いました。カンファレンスが行われているミッドランドにおいて、展示ブースを設営し、各企業の主力商品の展示説明会を開催しました。参加企業の募集から、企業への説明会開催、設営業者の選定と費用算出など、メンバー5人が一丸となって対応致しました。また、同時並行でカンファレンス後に開催する「レセプションパーティー」の企画・運営も行いました。ホテルの宴会場を借りて、立食形式の150人参加のパーティの準備も大変でした。予算枠の中で豪華な食事とパーティにふさわしいアトラクションを企画しました。そのアトラクションで熱唱して頂いたオペラ歌手の二宮咲子さんは、現在も海外で活躍されています。

IT経営カンファレンスを大成功におさめた企画委員会の次の活動は、ITC中部会員の相互交流を図るという目的で、賀詞交歓会の開催を実施しました。この企画は2013年も実施し、大好評を得ています。

その後、ITC中部のホームページの大刷新やITコーディネータのデータベース作成を実施して参りました。特にホームページの大刷新は、検討に検討を重ね、BD委員会メンバーである高橋氏と、彼が所属するWEBデザイン会社様の絶大な協力があったことで実現できたものであります。

昨年、企画委員会からブランドデザイン委員会に名称変更を致しました。ITC中部会員様のために、いろいろなことを企画・立案・実行するというコンセプトはそのままに、ITコーディネータという「ブランド」を如何にデザインしていくか、ということも含めて、今後とも活動を続けていく所存です。

これからは、ITコーディネータのデータベースをより充実させて、必要とされるITCをすぐに検索し活用できるようにしてまいります。そのためにも、ITCの皆様のご協力が必要です。今後とも、ITC中部ブランドデザイン委員会をよろしくお願ひ致します。(ITC中部 稲崎 俊一)



ブランドデザイン委員会の皆さん

## 事務局だより

ITC中部会員の皆様、事務局の山本です。今年の夏も大変暑い日が続きましたね(原稿を書いている今日も猛暑日です)。ITC中部も早いもので、発足10年を迎えることができました。

10年前、私は名古屋の某中小企業で夢の実現真っ最中でした。その時の夢とは、「情報システム部門のない中小企業に入社して、自分の好きなITを導入して、企業をIT化させること」でした。まさに、10年前夏、当時働いていた企業にとって前代未聞のIT投資プロジェクトが発足し、格闘を始めた直後の時期でした。CTIを使ったコールセンターシステムの構築及び、セキュリティー対策、事務所移転などなど同時にいくつものタスクが進行し、頭の中がクチャクチャになっていたのを思い出します。ベンダーと現場スタッフ、経営陣の間を飛び回り、折衝事や調整におわっていました。その当時、ITコーディネータという資格は知っていましたが、どんなスキルがある人たちかはよく分かっていませんでした。

そして、そのプロジェクトは数多くの問題を抱えながら1年半継続し、最終的にはとん挫いう結果に終わってしまいました。私自身この経験は、非常におおきな教訓と学びとなっています。その後、ITコーディネータケース研修を受講する際には、「この当時、このノウハウとスキルを知っ

ていれば、結果は変わったのではないか」と思わずにはいられないほどの、衝撃を受けました。ITC中部に参加されている皆様も、きっと同じ様な衝撃を受けられたことがあるのではないかと思います。この衝撃・感動を、より多くの中小企業経営者やIT部門責任者に体験し、企業経営に「IT経営」を取り入れていただくためには、やはり、われわれITC中部のメンバーの活躍が必要です。

この10年でITはびっくりするほど、進化しました。クラウドはIT導入コスト及び運用費用を爆発的に低減することになり、短期間で必要な時に必要なITサービスを受けられるようになりました。それに伴い、われわれITコーディネータの“コーディネート力”は今後の中小企業のIT導入には必要不可欠です。私たちITコーディネータが、さまざまなITツールやクラウドサービスを如何に中小企業がIT経営を実践するために必要なかを、見極めていくことは、今後の重要な課題ではないでしょうか。

私たちのビジネスモデルも時代に合わせて変化していかないと、今後市場から必要がないとの烙印を押されてしまうのではないかとという危機感もあり、ITC中部としても大きな変化が必要なのではないかと思っています。(ITC中部 山本 健太)

来年度(H26年度)からITC中部の会費が8,000円となることが総会で承認されました。これに合わせて、これまで総会は参加費として3,000円を徴収しておりましたが、無料となります。

H25年度の会費のお振込を頂いてない方が若干名いらっしゃいますので、お振込よろしくお願ひいたします。

銀行名:三菱東京UFJ銀行 金山支店  
口座:普通、1090276  
口座名:トクテイヒエイリカソドウホウジンアイ  
※会社名義でお振込みの場合には、お手数料がかかりますが会社名と振込者名を事務局まで、ご連絡をお願いいたします。  
※振込手数料はご負担下さい。

## NPO・ITC中部広報誌第21号 平成25年10月24日 発行

発行: NPO・ITC中部広報委員会(〒460-0022 名古屋市中区金山五丁目11-6(NSC)内)

発行責任者: NPO・ITC中部 理事長 和澤 功 編集責任者: NPO・ITC中部 広報委員長 秋山 剛

ホームページ(<http://www.itc-chubu.jp/>)

## NPO・ITC中部 広報誌

Vol.21

# 架け橋

KAKEHASHI

## 新理事長挨拶

### ◆高い志と使命感に燃える!創業時の思い

ITC中部は中部圏のITコーディネータが大同団結する形で結成された。2001年4月から任意団体として船出、その後2003年11月に特定非営利活動法人ITC中部として組織化されました。

設立当初は、ITコーディネータ・ゼネレーション1(ITコーディネータ制度設立チーム)に属する東海3県のITCインストラクターとITC第1期生が軸となり、主として愛知県・岐阜県・三重県のITCを組織化しました。

ゼネレーション1のインストラクターとITC第1期生の集まりでは、正に熱気の塊とも表現できるような熱い議論が展開されました。集まりは月1回開催でしたが、多くのITCからメーリングリストへの発言がほぼ毎日なされ、中身の濃い議論が展開されました。

議論の中身は、

- ①ITコーディネータの使命「ITユーザーとITベンダーの橋渡し」をいかに実現するのか?
- ②中部圏のITCをいかに組織化し、ユーザーのための活動をどう展開するのか?
- ③ITコーディネータ制度を発展させ、いかに社会に認められる資格に成長させるのか?  
...等々、大きな課題から、
- ④ITSSP(平成11年度から行われた戦略的情報化投資活性化支援事業:ITソリューション・スクエア・プロジェクト)への参加と具体的な活動計画をどうしたらよいか?
- ⑤毎年の資格更新に必要な知識ポイントをできるだけ安価に、しかも名古屋近郊で取得できるようにするにはどうしたらよいか?
- ⑥中部圏のITコーディネータが集まるために魅力的な組織にするにはどうしたらよいか?  
...等々、会員ITCのためになる具体的な活動内容が話し合われました。

こうした創業時のITCの熱い思いがDNAとして引き継がれ、今では具体的な活動組織・委員会あるいはプロジェクトとして現在の活動に繋がっています。

### ◆ITC中部の知名度UP大作戦! ITC中部独自の活動開始

2004年度から始まった経済産業省の「中小企業IT経営力大賞」は、「IT経営とは、経営戦略・経営改



水口副理事長

革の実現のためにITを高度に活用する経営スタイルを指す」として、毎年全国の優秀なIT経営事例を表彰する制度となっています。これは全国の事例を対象として数多くの応募案件の中から十数件の表彰企業を選考するものであって、なかなか多くの中部圏の企業が選考されることがないため、せっかく応募した素晴らしいあるいは当地区として面白い案件が眠ってしまうことにもなって、『もったいない』ね!ということで中部経済産業局とITコーディネータ協会の後援を得てITC中部をはじめとする中部5県のITC組織が共催し、ITC中部を事務局とする「中部IT経営力大賞」が生まれました。

この制度は、全国でも例がなく、正にITC中部独自の活動「IT経営カンファレンス」として定着し、中部圏の素晴らしいIT経営事例を毎年表彰しています。これによって、当地区のIT経営先進事例を広く紹介できるとともに、それらを支援するITC中部の知名度が大いに上がることで、ITC活動を支える基幹イベントとなっています。

### ◆未来のITコーディネータとして!

時代の進歩とともに社会や経済、そしてそれらを支える企業活動も大きく変化していきます。「そうした変化を的確に捉え、迅速に対応することによって社会に大いに役立つITコーディネータでありたい!」創業時の熱い思いと原点を忘れずに、未来のあるべきITコーディネータ像を描きながら研鑽を重ね、会員全員が一致団結して社会になくってはならないITコーディネータを目指しましょう!

(ITC中部 副理事長 水口 和美)

特定非営利活動法人  
**ITC中部**  
<http://www.itc-chubu.jp/>

## NPO法人化10周年記念



## 目次

NPO設立当時を振り返って 1

NPO ITC中部10年の歴史 2

ビジネススキルアップ委員会の歴史 3

広報委員会の歴史 3

ブランドデザイン委員会のあゆみ 4

事務局だより 4

2002	6	組織	ITC中部 設立
	3	総会	「平成15年度 NPO ITC中部定期総会」開催
	6	イベント	ビジネスウェブ21・2003「経営者のためのIT活用・情報セキュリティ無料相談会」出展
2003	11	組織	2003年11月1日 NPO法人化
	11	広報誌	架け橋 創刊号発行 トップ記事「創刊のご挨拶」(理事長 関口幸一)【1】
	11	イベント	「NPO ITC設立記念講演会」開催
	11	イベント	中小企業IT投資促進フェア2003「ITコーディネータ・ブース」出展
2004	3	交流会	初の交流会として「ITC近畿」を訪問
	6	イベント	中小企業IT投資促進フェア2004「ITコーディネータ・ブース」出展
	9	セミナー	ITC名古屋と「PMBOK研修会」を共催
	11	交流会	「ITCあおもり」を訪問、「第三回ITCワークショップin東北」に参加
2005	3	広報誌	架け橋 Vol.4発行 トップ記事「ITC中部 今光会長就任のご挨拶」(会長 今光廣一)
	6	イベント	ビジネスウェブ21「中部IT経営応援隊ブース」出展
	9	交流会	「広島ITC協同組合」を訪問、同組合の「第三回記念行事」に参加
	11	プロジェクト	「万博プロジェクト」の活躍に対し、万博協会から感謝状を授与される【2】
2006	3	総会	「平成17年度 第2回定例・講演会」、「ITCプロセスガイドライン勉強会」同時開催
	6	イベント	「ビジネスウェブ21」にて「中部IT経営応援隊ブース」を運営
	8	セミナー	ITCAから中部地区で開催するセミナー(全9回)の運営業務を受託
2007	2	交流会	「ITCくまもと」を訪問、同組織の「2月定例勉強会」に参加
	3	福利厚生	「ITC中部第1回架け橋会ゴルフ大会」を鈴鹿市の鈴峰ゴルフ倶楽部で開催
	6	イベント	「IT経営カンファレンス2007 in NAGOYA」開催、初の地方開催、参加者数450名超の盛会に【3】
	9	交流会	「ITC富山」を訪問、「知識研修セミナー2007」に参加
2008	12	総会	「平成19年度 第1回例会・講演会」開催、金城学院大学・中田平教授による特別講演
	3	交流会	「ITC沖縄」を訪問、「ITC沖縄、ITC中部の交流会」を開催
	4	プロジェクト	上海プロジェクト訪中、視察団団長に名古屋工業大学大学院・岩田彰教授
	10	交流会	「ITC愛媛」を訪問、「ITコーディネータ支援活用セミナー」に参加
2009	11	セミナー	自主勉強会「民間博物館 明治村」(犬山市)見学
	11	セミナー	自主勉強会「沢根スプリング株式会社」(浜松市)見学
	3	交流会	「さつまITC倶楽部」(鹿児島県)を訪問、合同勉強会を実施
	6	セミナー	自主勉強会「パナソニック電工株式会社 津工場」(津市)見学
2010	9	広報誌	架け橋 Vol.13発行 トップ記事「ITC中部矢口新理事長挨拶」(理事長 矢口隆明)
	9	交流会	「北海道ITコーディネータ協議会」を訪問、同協議会の「2009秋季セミナー」に参加【4】
	11	セミナー	自主勉強会「浜松日赤病院」見学
	6	総会	「平成22年度総会・講演会」を開催、中京テレビ放送・川本哲也氏他による特別講演
2011	7	プロジェクト	iPhoneプロジェクト「日本モンキーパーク・デジタルガイド実証実験」実施【5】
	9	セミナー	自主勉強会「大東亜産業株式会社」(土岐市)工場見学会
	9	セミナー	自主勉強会「第32回 日本生産管理学会全国大会」参加
	10	プロジェクト	iPhoneプロジェクト「iPhoneフェスタ2010」開催
2012	10	交流会	「ITCみやぎ」(仙台市)を訪問、「ITCみやぎ・SAAJ東北・JISTA東北ワークショップ2010」に参加
	2	イベント	「IT経営カンファレンス2011 in NAGOYA」、「情報化サミット2011」開催
	6	総会	「平成23年度総会・講演会」を開催、EDS21鈴木明夫顧問による特別講演
	10	セミナー	自主勉強会「ネットオフ株式会社」(大府市)見学
2013	11	交流会	「福岡ITコーディネータ推進協議会」を訪問、同協議会の「第15回定例セミナー」に参加
	2	イベント	「IT経営カンファレンス2012 in NAGOYA」、「情報化サミット2012」開催
	4	組織	公共事業推進委員会、マッチング事業委員会 発足
	9	広報誌	架け橋 Vol.19発行 トップ記事「新理事長挨拶」(理事長 和澤功)
2014	10	交流会	「ITC新潟」を訪問、ビジネス交流会を共同開催
	5	福利厚生	「ITC中部第14回架け橋会ゴルフ大会」を富士カントリー可児クラブ美濃ゴルフ場で開催
	6	総会	「平成25年度総会・講演会」を開催
	7	セミナー	自主勉強会 読書会「プロセスガイドライン(Ver.2.0)の内容を理解しよう!!」を開催



2003年11月1日、臨時総会での承認によりNPO ITC中部が誕生した時、現在のBizup委員会は、「ポイント事業・会員交流委員会」として活動していた。(その後、しばらくして「ポイント委員会」という名称になった) 当時、ITCA後援セミナーは1ポイント/4時間、自主勉強会は1ポイント/8時間のため、現在と比較すると、資格維持の負担はかなり重かった。当委員会は、なんとか会員のポイント取得を支援するため、PMBOKセミナー(4ポイント・16時間)と合同自主勉強会(4ポイント・8時間×4日、1コマ=4時間)を柱にして活動していた。

PMBOKセミナーは、当初、会員受講費2万円ながら、ITCポイントとともにPMPのPDUポイントも同時に取得できたこと、及び名古屋商工会議所と連携したことから、活況を呈していたが、2005年頃からITC向けの無料セミナーが徐々に増えてきたこともあり、受講者が年々減少した。2007年度、会員へのアンケートを実施し、その結果により、以降のPMBOKセミナー開催はなくなった。

2006年度には、自主勉強会ポイントの条件が緩和され、合同自主勉強会の様式も変更になった。(6ポイント・6時間×4日、1コマ=2時間)この時は、公募でテーマを募り、自主研究会活動を実施していた。助成金を出す代わりに、研究の成果を自主勉強会で発表もらうことになっていたため、コマ数が多くても自主勉強会テーマには困らなかった。

2007年度、PMBOKセミナーはなくなったが、6月9日にIT経営カンファレンス2007in NAGOYAが開催されることとなり、別プロジェ

クトながら、ポイント委員会は全面協力することとなり、前年度末から当年度の前半は多忙であった。

2008年度からは、従来の座学形式の自主勉強会を減らし、文化施設見学、企業見学を取り入れた自主勉強会を企画するようになった。

更に、テーマ別勉強会や他団体との連携勉強会も積極的に実施する形が出来上がった。このフレームは基本的に現在に受け継がれている。

2010年度から、当委員会は「ビジネススキルアップ委員会」(略称 Bizup委員会)となり、座学形式のITC中部の自主勉強会にも、ITCA後援扱いポイントを付与できるようになったことから、これを「Bizup研修」と呼ぶようになった。

2013年度は、ITCA後援ポイントが2時間で1ポイントと認められるようになった。これを踏まえて、Bizup委員会では、今後のポイント取得支援のあり方について、更なる改善を検討していかなければならないと考えている。



自主勉強会の風景

(ITC中部 磯部 秀敏)

広報委員会の歴史

ITC中部広報委員会の歴史はITC中部の発足時から始まっています。広報委員会は「ITC制度の一層の普及」と「ITC中部の紹介・宣伝」を主たる使命として活動してきました。主に①広報誌「架け橋」の発刊、②全国のITC組織との交流、③会員を対象とした福祉活動(ゴルフコンペの主催など)を活動の柱としてきました。

広報誌は名前を会員より公募し、ITCAのそれに先駆けて「架け橋」とし、現在まで欠かさことなく2回/年づつ発刊してきました。WEB時代の中で、唯一紙(リアル)によって会員の皆様を繋ぐ手段として成果を上げてきたと考えております。(最近では予算の制約から、紙による発刊を年1回、PDF形式でのWEB公開を年1回としています) 内容も「地方(三重、岐阜、浜松)特集」、「税理士特集」、「海外特集」など毎回特集を組んだり、折々のイベント結果(定期総会、情報化サミットなど)の報告、各委員会活動の紹介、新理事長や役員挨拶などを掲載してきました。

全国のITC組織との交流は、今までに北は北海道(札幌)から南は沖縄(那覇)までに及んでいます。ITC中部の発足した年に、ITC近畿会(大阪)を訪問し、ITC制度や地方組織にあり方などについて意見交換したのが第1回目です。年1回のペースで今までに訪問した都市は、札幌・青森・仙台・富山・新潟・大阪・松山・広島・熊本・福岡・鹿児島・那覇、などです。交流会は一方的にならないよう相互主義でやることとし、内容は研修会・意見交換会・懇親会を基本としてきました。研修会については双方から講師を出すことを原則として、また冒

頭でITC中部の紹介(宣伝)を広報委員長からさせてもらいました。おかげで、ITC中部の名前が全国的



ITC沖縄の皆様と(2008年3月那覇市にて)

になり、広報の成果が出たように感じております。ITC中部側のメンバーも、全国へ出かけて現地のITCの方々や触れ合い、講演をお聞きする機会を得て、本当によい勉強となったようです。また、研修会終了後、夜の懇親会も大変楽しみなものとなりました。地元のITCの方々や地場のおいしいものやお酒を頂きながら、充実した意見交換ができました。

ITC中部の会員に対する福祉活動については、ゴルフコンペの主催を1,2回/年ペースでやってきました。愛知県や三重県のゴルフ場で、「架け橋」と称するゴルフコンペを主催し、皆さんに楽しんでもらっています。

これらも活動は会員であれどなたでも参加できます。皆さんのご参加をお待ちしています。(ITC中部 和澤 功)